

やつ当たりの研究パラダイム

淡野 将太

(2013年10月3日受理)

Research Paradigm of Displaced Aggression

Syota Tanno

Abstract: A review of research paradigm of displaced aggression is presented. The author arranged the Japanese wording of displaced aggression, summarized the historical transition of research on displaced aggression, and reviewed research paradigm of displaced aggression.

Key words: displaced aggression, triggered displaced aggression

キーワード：やつ当たり、八つ当たり、TDA、攻撃

本稿は、やつ当たり (displaced aggression) の研究パラダイムを記述する。まず、displaced aggression の訳語について整理する。次に、やつ当たりの心理学的研究の変遷をまとめる。最後に、やつ当たりの研究パラダイムを記述する。

Displaced aggression の訳語

“displaced aggression” の訳語について整理する。淡野 (淡野, 2008a, 2008b, 2008c, 2009, 2010) は、“displaced aggression” の訳語に“置き換えられた攻撃”を採用している。採用に至る経緯は以下の通りである。Dollard, Doob, Miller, Mowrer, & Sears (1939) の訳書において宇津木 (Dollard, Doob, Miller, Mowrer, & Sears, 1939 宇津木訳 1959) は、“displaced aggression” を“置き換えられた攻撃”と表記している。この訳語に従うと、“置き換えられた攻撃”をそのまま採用することが適している。しかし、広辞苑 (新村, 2008) を参照すると、“おきかえ”という語の漢字には“置き代え”ではなく“置き換え”という漢字の表記を用いる方が一般的であることが分かる。他の

攻撃行動研究に関する日本語の書籍を参照すると、大淵 (1993, 2000) において“置き換え”という表現が用いられている。また、訳書 (Krahe 2001 秦・湯川編訳 2004) においても、“置換”という訳語があげられている。そのため、“置き換えられた攻撃”を採用している。

本稿は、displaced aggression を“やつ当たり”で開く。日常語という説明の有用性の観点からやつ当たりを採用する。

やつ当たりの心理学的研究の変遷

やつ当たりの定義について述べる。やつ当たりは、個人が挑発事象を経験した時に、挑発の源泉ではない他の対象に表出する攻撃行動である (Dollard et al., 1939; Hovland, & Sears, 1940)。例えば、試合後に監督から批判を受けたサッカー選手のタロウが、新人選手であるマットにきつく当たる、といった行動がやつ当たりである。また、TDA とは、誘発されて表出するやつ当たりを指す (Dollard, 1938)。上記の例において、マットのちょっとした失言をきっかけにやつ当

たりを行った場合、これを TDA と呼ぶ。

やつ当たりの心理学的研究の変遷をまとめる。欲求不満－攻撃仮説 (Dollard et al., 1939; Hovland, & Sears, 1940) は、欲求不満による攻撃の矛先が挑発の源泉ではない他の対象に向けられる時にやつ当たりが生起する、と仮定した。この仮説の演繹的な現象の記述という形式で、社会心理学者を中心に1980年代後半まで実験研究が展開され、やつ当たりの現象成立が検討された。研究が進展すると、実験結果が一貫せず、やつ当たりが生起すると結する研究とやつ当たりが生起しないと結する研究が散発するようになった。加えて、やつ当たりの強度の調整変数はほとんど検討されていなかった。そのため、やつ当たりの現象成立は疑問視され、研究者のやつ当たりに対する関心は低下し、1990年代以降はほとんど研究が行われなくなった。2000年になり、ふたつの研究が提出されたことでやつ当たり研究は加速する。Marcus-Newhall, Pedersen, Carlson, & Miller (2000) は、やつ当たりの実験研究についてメタ分析を行い、やつ当たりは確かに生起することを示すとともに、調整変数について言及を行った。Pedersen, Gonzales, & Miller (2000) は、実験室において TDA を検討する実験手続きである TDA パラダイムを構築した。ふたつの知見を受けて、やつ当たりの誘発メカニズムに関する理論モデルである TDA 理論 (theoretical model of triggered displaced aggression: Miller, Pedersen, Earleywine, & Pollock, 2003) が提唱された。そして現在、TDA 理論を軸にやつ当たりの誘発メカニズムについて精緻化を行いながら、やつ当たりに従事しやすい個人差を測定する尺度の開発や、やつ当たりを誘発しない緩衝効果 (buffering effect) の検討が進んでいる (for reviews see 淡野, 2010; Tanno, 2012)。

やつ当たりの研究パラダイム

やつ当たりの研究パラダイムを記述する。やつ当たり研究は、直接的攻撃 (i.e., 挑発の源泉に対する攻撃) の研究手法を援用し、攻撃対象者を挑発の源泉ではない人物に設定することでやつ当たりを測定することを研究手法の基本としている。攻撃行動は、“他者に危害を加えることを意図した行動”と定義される (cf. Dodge, Coie, & Lynam, 2006)。直接的攻撃研究は、認知心理学や攻撃行動ではない社会心理学などを装った虚偽実験を行い、その実験文脈において攻撃対象者に危害を加えることを意図した行動を攻撃指標に設定する。やつ当たりは、挑発の源泉ではない他の対象に表出する攻撃行動である。やつ当たり研究は、実験文

脈において挑発の源泉ではない攻撃対象者に危害を加えることを意図した行動を攻撃指標に設定する。

初期のやつ当たり研究は、挑発事象を経験した実験参加者に、攻撃対象者の印象評定や成績評定を質問紙に回答させることによってやつ当たりを測定していた (e.g., Berkowitz, 1965; Berkowitz & Geen, 1962; Berkowitz & Knurek, 1969; Burnstein & Worchel, 1962; Cowen, Landes, & Schaet, 1959; Fischer, Kelm, & Rose, 1969; Miller & Bugelski, 1948)。攻撃指標は研究によって異なり、その種類も多様であった。

その後、やつ当たり研究は実験研究を重ねる中で、やつ当たりパラダイム (displaced aggression paradigm) として実験操作を3段階に分けて攻撃を測定する研究手法を構築する。まず、T1 (Time 1) の挑発事象において挑発操作を行う。次に、T2 (Time 2) の相互作用場面において、実験参加者に挑発の源泉ではない攻撃対象者と相互作用を行わせる。最後に、実験参加者に T2 で相互作用を行った攻撃対象者に対する攻撃の機会を与え、やつ当たりを測定する。

1960年代には、直接的攻撃研究において、実験室における攻撃行動の測定方法として教師－生徒パラダイム (teacher-learner paradigm: Buss, 1961)、エッセイ評価パラダイム (essay evaluation paradigm: Berkowitz, 1962) および競争的反応時間パラダイム (competitive reaction time paradigm: Taylor, 1967) が確立され、やつ当たりパラダイムはこれらの測定方法を取り入れた (i.e., パラダイムにパラダイムを組み込んだ)。すなわち、T1 の挑発事象において挑発操作を行い、T2 の相互作用場面において実験参加者に挑発の源泉ではない攻撃対象者と教師－生徒パラダイム、エッセイ評価パラダイムおよび競争的反応時間パラダイムのいずれかの手法を用いて相互作用を行わせ、攻撃指標である電気ショックを攻撃対象者に与える機会を与える。やつ当たりは、電気ショックの強度、持続時間もしくは強度と持続時間の両方によって測定する。直接的攻撃研究では、3つのパラダイムを用いる研究手法が主流となり、やつ当たり研究でも3つのパラダイムを組み込んだやつ当たりパラダイムを用いる研究が主流となった (e.g., Epstein, 1965; Fenigstein & Buss, 1974; Nacci & Tedeschi, 1977; Rule, & Hewitt, 1971; Swart & Berkowitz, 1976)。

やつ当たりの研究パラダイムは、Pedersen et al. (2000) が実験室においてやつ当たりを誘発することに成功したことを機に、TDA パラダイム (triggered displaced aggression paradigm) に発展する。TDA パラダイムでは、やつ当たりパラダイムと同様に、実験操作を3段階に分けて攻撃を測定する。まず、T1

の挑発事象において挑発操作を行う。挑発操作の段階では、やつ当たりパラダイムとTDAパラダイムの実験手続きの枠組みに差異はない。しかし、T2の相互作用場面においては、やつ当たりパラダイムでは攻撃対象者は何も行わないのに対し、TDAパラダイムでは攻撃対象者が些細な誘発事象を行う。そして最後に、攻撃対象者に対する攻撃機会を与え、TDAとしてのやつ当たりを測定する。

TDAパラダイムは、やつ当たりパラダイムと同様に、T2の誘発事象である実験参加者と攻撃対象者の相互作用場面において、教師-生徒パラダイム、エッセイ評価パラダイムおよび競争的反応時間パラダイムを取り入れるが、攻撃指標は多様な実験文脈に適合させるかたちでヴァリエーションがある。これまでに提出された研究における攻撃指標には、攻撃対象者に対するネガティブな評価 (Aviles, Earleywine, Pollock, Stratton, & Miller, 2005; Bushman, Bonacci, Pedersen, Vasquez, & Miller, 2005 Study 1; Denson, Pedersen, Friese, Hahm, & Roberts, 2011 Study 2 and Study 3; Tanno, 2012 Study 1, Study 2, and Study 3; Pedersen, Bushman, Vasquez, & Miller, 2008 Experiment 3; Pedersen et al., 2000 Study 1 and Study 2), 攻撃対象者の課題を妨害するノイズの強度 (Bushman et al., 2005 Study 3; Pedersen et al., 2008 Experiment 2), 攻撃対象者の課題を妨害するノイズの強度と時間 (Pedersen et al., 2008 Experiment 1), 攻撃対象者の課題を妨害するために行う攻撃対象者が冷水に手をつける時間 (Denson, Aviles, Pollock, Earleywine, Vasquez, & Miller, 2008; Denson, Pedersen, & Miller, 2006 Experiment 1 and Experiment 2; Denson, Spanovic, Aviles, Pollock, Earleywine, & Miller, 2011; Pedersen, 2006; Pedersen, Denson, Goss, Vasquez, Kelley, & Miller, 2011 Experiment 3; Vasquez, 2009; Vasquez, Denson, Pedersen, Stenstrom, & Miller, 2005; Vasquez, Ensari, Pedersen, Tan, & Miller, 2007 Study 1 and Study 2), Lieberman, Solomon, Greenberg, & McGregor (1999)が確立したホットソースパラダイムを援用した攻撃対象者が摂取する食べ物に入れるホットソースの量 (Bushman et al., 2005 Study 2; Denson, White, & Warburton, 2009; Vasquez, Pedersen, Bushman, Kelley, Demeestere, & Miller, 2013) がある。実験文脈を多様にするのは、実験手続きを多様にしてやつ当たりの誘発メカニズムの妥当性を保証するためである。また、TDAに及ぼすアルコールの影響を検討する際は、食べ物の嗜好に関する実験としてホットソースを用いると虚偽実験に対する疑いが少なくなる。

TDAパラダイム以外には、やつ当たりの頻度や個人差傾向を質問紙で直接測定する質問紙法が採用されている (Denson et al., 2006; Hoobler & Brass, 2006; Mitchell & Ambrose, 2007, 2012; Vasquez, Osman, & Wood, 2012)。また、子どもを対象とした研究では、個別の面接で仮想場面法を用い、攻撃対象者に対するやつ当たりの意図を測定している (Nesdale & Duffy, 2011)。Nesdale & Duffy (2011) は、7歳児および9歳児を研究対象とし、実際の攻撃行動を測定するのは困難かつ倫理上問題があるため攻撃の意図を測定した、としている。Reijntjes, Kamphuis, Thomaes, Bushman, & Telch (2013) は、コンピュータを用いたインターネットのコンテストにおいて挑発操作および攻撃測定を行っている。

【引用文献】

- Aviles, F., Earleywine, Pollock, V., Stratton, J., & Miller, N. (2005). Alcohol's effect on triggered displaced aggression. *Psychology of Addictive Behaviors*, *19*, 108-111.
- Berkowitz, L. (1962). *Aggression: A social psychological analysis*. New York: McGraw-Hill.
- Berkowitz, L. (1965). Some aspects of observed aggression. *Journal of Personality and Social Psychology*, *2*, 359-369.
- Berkowitz, L., & Green, J. A. (1962). The stimulus qualities of the scapegoat. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, *64*, 293-301.
- Berkowitz, L., & Knurek, D. A. (1969). Label-mediated hostility generalization. *Journal of Personality and Social Psychology*, *13*, 200-206.
- Burnstein, E., & Worchel, P. (1962). Arbitrariness of frustration and its consequences for aggression in a social situation. *Journal of Personality*, *30*, 528-540.
- Bushman, B. J., Bonacci, A. M., Pedersen, W. C., Vasquez, E. A., & Miller, N. (2005). Chewing on it can chew you up: Effects of rumination on triggered displaced aggression. *Journal of Personality and Social Psychology*, *88*, 969-983.
- Buss, A. H. (1961). *The psychology of aggression*. New York: Wiley.
- Cowen, E. L., Landes, J., & Schaet, D. E. (1959). The effects of mild frustration on the expression of prejudiced attitudes. *Journal of Abnormal and*

- Social Psychology*, **58**, 33-38.
- Denson, T. F., Aviles, F. E., Pollock, V. E., Earleywine, M., Vasquez, E. A., & Miller, N. (2008). The effect of alcohol and the salience of aggressive cues on triggered displaced aggression. *Aggressive Behavior*, **34**, 25-33.
- Denson, T. F., Pedersen, W. C., Friese, M., Hahn, A., & Roberts, L. (2011). Understanding impulsive aggression: Angry rumination and reduced self-control capacity are mechanisms underlying the provocation-aggression relationship. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **27**, 850-862.
- Denson, T. F., Pedersen, W. C., & Miller, N. (2006). The Displaced Aggression Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology*, **90**, 1032-1051.
- Denson, T. F., Spanovic, M., Aviles, F. E., Pollock, V. E., Earleywine, M., & Miller, N. (2011). The effects of acute alcohol intoxication and self-focused rumination on triggered displaced aggression. *Journal of Aggression, Maltreatment, and Trauma*, **20**, 128-147.
- Denson, T. F., White, A. J., & Warburton, W. A. (2009). Trait displaced aggression and psychopathy differentially moderate the effects of acute alcohol intoxication and rumination on triggered displaced aggression. *Journal of Research in Personality*, **43**, 673-681.
- Dodge, K. A., Coie, J. D., & Lynam, D. (2006). Aggression and antisocial behavior in youth. In W. Damon & R. M. Lerner (Series Eds.), N. Eisenberg (Vol. Ed.), *Handbook of child psychology: Vol. 3, Social, emotional, and personality development*. New York: Wiley. pp. 719-788.
- Dollard, J. (1938). Hostility and fear in social life. *Social Forces*, **17**, 15-26.
- Dollard, J., Doob, L. W., Miller, N. E., Mowrer, O. H., & Sears, R. R. (1939). *Frustration and aggression*. New Haven, CT: Yale University Press.
- Dollard, J., Doob, L. W., Miller, N. E., Mowrer, O. H., & Sears, R. R. (1939). *Frustration and aggression*. New Haven, CT: Yale University Press. 宇津木保 (訳) (1959). 欲求不満と暴力 誠信書房
- Epstein, R. & Wayne, S. U. (1965). Authoritarianism, displaced aggression, and social status of the target. *Journal of Personality and Social Psychology*, **2**, 585-589.
- Fenigstein, A., & Buss, A. H. (1974). Association and affect as determinants of displaced aggression. *Journal of Research in Personality*, **7**, 306-313.
- Fischer, D. G., Kelm, H., & Rose, A. (1969). Knives as aggression-eliciting stimuli. *Psychological Report*, **24**, 755-760.
- Hoobler, J. M., & Brass, D. J. (2006). Abusive supervision and family undermining as displaced aggression. *Journal of Applied Psychology*, **91**, 1125-1133.
- Hovland, C. I., & Sears, R. S. (1940). Minor studies of aggression: VI. Correlation of lynchings with economic indices. *Journal of Psychology*, **9**, 301-310.
- Krahe, B. (2001). *The social psychology of aggression*. New York: Psychology Press. 秦一士・湯川進太郎 (編訳) (2004). 攻撃の心理学 北大路書房
- Lieberman, J. D., Solomon, S., Greenberg, J., & McGregor, H. A. (1999). A hot new way to measure aggression: Hot sauce allocation. *Aggressive Behavior*, **25**, 331-348.
- Marcus-Newhall, A., Pedersen, W. C., Carlson, M., & Miller, N. (2000). Displaced aggression is alive and well: A meta-analytic review. *Journal of Personality and Social Psychology*, **78**, 670-689.
- Miller, N. E., & Bugelski, R. (1948). Minor studies of aggression: II. The influence of frustrations imposed by the in-group on attitudes expressed toward out-groups. *Journal of Psychology*, **25**, 437-442.
- Miller, N., Pedersen, W. C., Earleywine, M., & Pollock, V. E. (2003). A theoretical model of triggered displaced aggression. *Personality and Social Psychology Review*, **7**, 75-97.
- Mitchell, M. S., & Ambrose, M. L. (2007). Abusive supervision and workplace deviance and the moderating effects of negative reciprocity beliefs. *Journal of Applied Psychology*, **92**, 1159-1168.
- Mitchell, M. S., & Ambrose, M. L. (2012). Employees' behavioral reactions to supervisor aggression: an examination of individual and situational factors. *Journal of Applied Psychology*, **97**, 1148-1170.
- Nacci, P. L., & Tedeschi, J. T. (1977). Displaced aggression: Drive reduction or equity restoration? *Human Relations*, **30**, 1157-1167.
- Nesdale, D., & Duffy, A. (2011). Social identity, peer group rejection, and young children's reactive, displaced, and proactive aggression. *British*

- Journal of Developmental Psychology*, **29**, 823-841.
- 大淵憲一 (1993). 人を傷つける心-攻撃性の社会心理学-サイエンス社
(Ohbuchi, K.)
- 大淵憲一 (2000). 攻撃と暴力-なぜ人は傷つけるのか-丸善株式会社
(Ohbuchi, K.)
- Pedersen, W. C. (2006). The impact of attributional processes on triggered displaced aggression. *Motivation and Emotion*, **30**, 74-86.
- Pedersen, W. C., Bushman, B. J., Vasquez, E. A., & Miller, N. (2008). Kicking the (barking) dog effect: The moderating role of target attributes on triggered displaced aggression. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **34**, 1382-1395.
- Pedersen, W. C., Denson, T. F., Goss, R. J., Vasquez, E. A., Kelley, N. J., & Miller, N. (2011). The impact of rumination on aggressive thoughts, feelings, arousal, and behavior. *British Journal of Social Psychology*, **50**, 281-301.
- Pedersen, W. C., Gonzales, C., & Miller, N. (2000). The moderating effect of triggering provocation on displaced aggression. *Journal of Personality and Social Psychology*, **78**, 913-927.
- Reijntjes, A., Kamphuis, J. H., Thomaes, S., Bushman, B. J., & Telch, M. J. (2013). Too calloused to care: An experimental examination of factors influencing youths' displaced aggression against their peers. *Journal of Experimental Psychology: General*, **142**, 28-33.
- Rule, B. G., & Hewitt, L. S. (1971). Effects of thwarting on cardiac response and physical aggression. *Journal of Personality and Social Psychology*, **19**, 181-187.
- 新村 出 (2008). 広辞苑第六版 岩波書店
(Shinmura, I.)
- Skarlicki, D. P., & Folger, R. (1997). Retaliation in the workplace: The role of distributive, procedural, and interactional justice. *Journal of Applied Psychology*, **82**, 434-443.
- Swart, C., & Berkowitz, L. (1976). Effects of a stimulus associated with a victim's pain on later aggression. *Journal of Personality and Social Psychology*, **33**, 623-631.
- 淡野将太 (2008a). 攻撃の置き換え傾向尺度 (DAQ) 日本語版作成に関する研究 教育心理学研究, **56**, 171-181.
- (Tanno, S. (2008a). Japanese version of the Displaced Aggression Questionnaire. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **56**, 171-181. in Japanese with English abstract.)
- 淡野将太 (2008b). 置き換えられた攻撃の誘発 (TDA) に及ぼす挑発者および攻撃対象者の地位の影響 教育心理学研究, **56**, 182-192.
- (Tanno, S. (2008b). Status of provocateur and target, and triggered displaced aggression. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **56**, 182-192. in Japanese with English abstract.)
- 淡野将太 (2008c). 攻撃の置き換え傾向と TDA パラダイムにおける攻撃評定の関連 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部 (教育人間科学関連領域), **57**, 221-224.
- (Tanno, S. (2008c). Relation between trait displaced aggression and aggressive responding in triggered displaced aggression paradigm. *Bulletin of the Graduate School of Education, Hiroshima University, Part. III (Education and Human Science)*, **57**, 221-224. in Japanese with English abstract.)
- 淡野将太 (2009). 地位が低い攻撃対象者に対する TDA に及ぼす関係性の調整効果 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部 (教育人間科学関連領域), **58**, 193-198.
- (Tanno, S. (2009). The moderating effect of relationships on triggered displaced aggression towards low-status targets. *Bulletin of the Graduate School of Education, Hiroshima University, Part. III (Education and Human Science)*, **58**, 193-198. in Japanese with English abstract.)
- 淡野将太 (2010). 置き換えられた攻撃研究の変遷 教育心理学研究, **58**, 108-120.
- (Tanno, S. (2010). Research on displaced aggression and triggered displaced aggression: A review. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **58**, 108-120. in Japanese with English abstract.)
- Tanno, S. (2012). The effects of interpersonal relationships on triggered displaced aggression. Kazama Shobo.
- Taylor, S. P. (1967). Aggressive behavior and psychological arousal as a function of provocation and the tendency to inhibit aggression. *Journal of Personality*, **35**, 297-310.
- Vasquez, E. A. (2009). Cognitive load, trigger salience,

- and the facilitation of triggered displaced aggression. *European Journal of Social Psychology*, **39**, 684-693.
- Vasquez, E. A., Denson, T. F., Pedersen, W. C., Stenstrom, D. M., & Miller, N. (2005). The moderating effect of trigger intensity on triggered displaced aggression. *Journal of Experimental Social Psychology*, **41**, 61-67.
- Vasquez, E. A., Ensari, N., Pedersen, W. C., Tan, R. Y., & Miller, N. (2007). Personalization and differentiation as moderators of triggered displaced aggression towards out-group targets. *European Journal of Social Psychology*, **37**, 297-319.
- Vasquez, E. A., Osman, A., & Wood, J. L. (2012). Rumination and the Displacement of Aggression in United Kingdom Gang-Affiliated Youth. *Aggressive Behavior*, **38**, 89-97.
- Vasquez, E. A., Pedersen, W. C., Bushman, B. J., Kelley, N. J., Demeestere, P., & Miller, N. (2013). Lashing out after stewing over public insults: The effects of public provocation, provocation intensity, and rumination on triggered displaced aggression. *Aggressive Behavior*, **13**, 13-29.

付 記

本研究は科学研究費補助金の助成を受けた。